

## 信州「村のかじや」再生事業

### 取り組みに至る背景・事業の目的

信濃町は戦国時代の川中島の合戦でこの地を往来した刀鍛冶によってその技術が伝えられたという「信州打刃物」の里で、その技術は受け継がれ、通商産業省の「伝統的工芸品」に認定されるなどして、鎌をはじめ、包丁やナタなどが、今も職人の手によって作られている。

信濃町柏原に、動力ハンマー導入以前の、昔ながらの鍛冶場を持つ茅葺屋根の古民家（信濃町指定文化財「中村家住宅」）が残った。明治時代以前のこの地域の鍛冶屋の様子を伝える貴重なものであるが、屋根の傷みが進行し、個人では維持管理が困難となったため、有志が「友の会」を立ち上げ、これを後世へと引き継ぐ保存活動に取り組んでいる。

### 事業内容

「中村家住宅」は、屋根の傷みが深刻な状態であったため、茅葺職人の協力を得て、「さしがやぶき」による修繕をおこなった。屋根をふく作業は専門性が必要なことから職人がおこなったが、カヤ刈り場からのカヤの運搬や、カヤの葉を落とす「カヤすぐり」、直径10cmほどの束にする「カヤ束づくり」、職人が屋根の表から刺した針金を垂木に巻きつける作業などは友の会会員でおこなった。この修繕により雨漏りを防ぐことができた。

建物内部はパネル展示を行うなど一般公開ができるように整備し、10月21日には見学会を実施した。また、建物を紹介するパンフレットの作成、「中村家住宅」の県宝申請などを行った。



【カヤを運搬し、さしがやぶきの準備をおこなう】

### 事業効果

「中村家住宅」の保存活動は始まったばかりであるが、こうした活動が多くの賛同者を得、友の会の会員数は約200名となった。このことは、住民の力を結集すれば、地域の文化財を自らの手で守っていくことができるという自信へとつながった。

また、今回整備できた展示やパンフレットの有効活用により、「中村家住宅」の重要性をより一層アピールし、この建物を核とした地域協働の推進、地域文化の再発見、更には観光振興、地域の活性化につなげていこうとする住民意識が高揚した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

茅葺屋根の修繕ではボランティアの確保にたいへん苦労した。また、ボランティアは素人であり、毎日人が入れ替わるために、協力いただいた職人さんにはたいへんな苦労をかけた。原料のカヤの確保と、茅葺きに係わる専門的な作業をボランティアで行うことの限界と難しさを実感した。

しかし、何とかやれたことは自信となり、これを生かして、今後もさらに整備を進めたいと考えている。また、整備が進んだこの建物を活用し、地域の活性化につながるようなイベント等を実施していきたい。

#### 【選定のポイント】

埋もれていた地域資源の再生を通じ、地域の資源は住民が守るという意識付けが図られた。

団体名	信州「村のかじや」友の会（信濃町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	電話090-4959-0748 （担当：渡辺）	事業費	255,919円
		支援金額	255,000円